

令和7年度 第3回 兵庫支部評議会 概要報告 (速報)

開催日	令和8年1月19日 月曜日 15:00 ~ 16:50
開催場所	ホテル北野プラザ六甲荘
出席者	品田評議員 (議長)、羽田評議員、田中評議員 大井評議員、清水評議員、谷口評議員 檜原評議員、藤田評議員 (順不同)
議題	(1) 令和8年度保険料率について (2) 令和8年度兵庫支部事業計画(案)について (3) 令和8年度兵庫支部保険者機能強化予算(案)について (4) 協会けんぽDXについて【報告事項】
議事概要 (主な意見等)	
<p>1. 令和8年度保険料率について</p> <p>【資料 1-1、1-2、1-3 に基づき事務局より説明】</p> <p>(事業主代表)</p> <p>これまで将来的に赤字になる見通しが示されていたことから、平均保険料率10%を維持する方針であると認識していたが、結果として国からの要請があったことで、引き下げの判断となったことに疑問を感じる。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>子ども子育て支援金の徴収が始まるので、引き下げることにしたと推測できる。支援金を全く別の健康保険料の仕組みを利用して徴収するのはいかがなものか。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>医療保険制度を持続可能な制度にすることが重要な前提としてあり、前回までの議論で兵庫支部としては将来の見通しが不透明であることから10%維持との結論を出したが、それが政治的な判断で引き下げられることは好ましくない。</p> <p>今後も政治の動向で、保険料率に変更されることに懸念があることを意見として伝えることが必要と考える。</p> <p>(学識経験者)</p> <p>診療報酬がプラス改定になるタイミングで保険料率が引き下がることに疑問を感じる。</p> <p>(学識経験者)</p>	

現役世代の負担を軽減させるために、保険料率を下げ一方で、国庫特例減額が遡って増額するのは、結果負担が生じることになり理屈が通らない。

また、これまで下げるべきという議論から将来の社会情勢が見通せないため10%維持の議論をしてきたが、現在の情勢もより一層不透明になっていると感じている。一度保険料率を下げたら、次に上げる時が大変というこれまでの議論もなくなってしまったと感じる。

(事業主代表)

事業主として保険料率が下がることは賛成であり、国庫補助率も維持されたことはよかった。

子ども子育て支援金については、これからの結果を見ていく必要がある

(事業主代表)

現在の準備金はどのように扱っているのか。インフレが進む中で、柔軟に対応すべき。

(事務局)

法律上制限はあるが、1,000億から長期の運用を始めていく。原資が保険料のため、高いリスクを負うことができない。

(学識経験者)

評議会の意見としては、支部保険料率10.12%で取りまとめたい。

2. 令和8年度兵庫支部事業計画(案)について

3. 令和8年度兵庫支部保険者機能予算(案)について

【資料2-1、2-2、2-3に基づき事務局より説明】

(学識経験者)

レセプト点検で兵庫支部の査定率が低い原因はなにか。

(事務局)

診療報酬支払基金が一次審査を行っており、基金の効果が全国4位と上がっている。その後に協会で点検を行うので、どうしても下がってしまう。

なお、診療報酬支払基金と協会を合わせた順位は全国7位となっている。

(学識経験者)

査定となるレセプトは地域によって基準が異なるものなのか。

(事務局)

最終的にレセプトの審査を行っているのは医師であり、医師によって判断が分かれる場合がある。全国同じ保険診療の基準でやっているが、査定になる場合とならない場合が出てくる。

(事業主代表)

地域や人によって差が出るのはおかしい。AI等を活用して精度向上や自動化に力をいれるべき。

(事務局)

地域によって差があることは課題として認識しており、統一するよう取り組んでいる。

(事業主代表)

サービススタンダードについて平均日数を10日から7日以内だと短くはなっているが、すでに100%を達成できていることから、5日以内等のより挑戦的な目標設定が望ましいと考える。

(学識経験者)

医療費の増加の要因として、多剤処方やはしご受診が挙げられると思うが、保険者としてチェックできるものなのか。

(事務局)

多剤処方やはしご受診をしている対象者を抽出し、啓発や指導を文書で行っている。多剤については、ポリファーマシーの観点から、啓發文書を送付し行動変容に繋げる事業を行っている支部もあるので参考にしていきたい。

(学識経験者)

今後はマイナ保険証を利用しAIも活用が進んでいくことでチェック体制が強化できれば適正受診につながるため、ぜひ活用を検討していただきたい。

(学識経験者)

保健事業の健診受診月から10か月以内の受診割合はどのように把握しているのか。

(事務局)

レセプトのデータを用いて集計している。

4. 協会けんぽ DX について

【資料 3 に基づき事務局より説明】

(学識経験者)

電子申請に置き換わった場合、現在の業務はどの程度削減できるのか。

(事務局)

受付から申請書のスキャン、返戻などかなりの部分で削減ができると考えている。

(事業主代表)

けんぽアプリについて、バージョン 0 からバージョン 1 に移行するまで 2 年を要しており、ニーズの変化に対応できないのではないか。もう少し細かいロードマップを示した方がわかりやすい。

特記事項

・次回は令和 8 年 7 月に開催予定。